

【理事会議事録】

日 時：2008年1月12日（土） 13：00～16：45

場 所：東京八重洲ホール地下一階A会議室

出席者：土佐，國枝，柴橋，花岡，高田，北本，田村，堂谷，渡部，中本，比田井，嶋作，高羽，福田

有効表決状提出者：和田

他に東條事務長が出席した。

議事に先立ち花岡，高田両庶務理事を署名人とすることが了承された。

報 告

1. 1. 前回議事録の確認

資料1に基づき前回議事録について高田庶務理事より報告があり確認された。

2. 記念切手に関する報告

北本会計理事より天文学会100周年の記念切手について口頭により報告が行われた。日本郵便によれば、デザインは年末に印刷会社に送られ、130万シートが発行される予定とのことである。

この件について報道発表が1月18日14時より国立天文台において行われる予定。デザインについては記者発表以降にリリース可能となる。

また、3月の100周年記念講演会・祝賀会出席者に記念切手を配布するときに使われる「たとう」については2月はじめに注文がされることが紹介され、何部作成するかについては早急に決める必要があることも報告された。「たとう」の中に書かれる切手のデザインの説明文案について配付資料により説明があり、不備な点等について指摘がなされた。日本郵便から天文学会への切手の贈呈式を記念式典中に行うこともあわせて報告された。また、この切手を天文学会が直接売るのは困難な状況であるが、公共天文台，科学館で切手販売が許可されているところでは販売可能であることも報告された。

3. 2010年までの年会開催地について

高田庶務理事より2010年秋までの年会開催地について資料2に基づいて説明があり、懸案であった2010年度については春は広島大学，秋は金沢大学において行うことが提案され，了承された。

なお，複数の理事より他の学会の日程との重複がある場合が最近多々あり，不便であるとの指摘が学会員より出ている点が報告され，年会主催者をお願いする時に，日程を決める際にその点を考慮するように念を押す必要があるとの意見が出された。

4. 百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について

柴橋副理事長より資料3及び追加の配付資料により春季年会に先立ち3月23日に開催される百周年記念講演会・祝賀会について説明がなされた。

現在の記念講演会及び祝賀会の出席申込者数がそれぞれ111人，79人であること，天文月報の折り込み記事や案内状の送付は既に行っている点，しかしながらまだ収容能力に対して余裕があることが報告された。一般科学・天文関係雑誌に紹介コラム掲載を依頼中であり，ポスター作成や新聞における紹介コラム掲載も予定されており，今後も宣伝を続けていく旨報告された。また10ページ程度のパンフレットを用意する予定であり，現在原稿を要請中であることも紹介された。

また，招待客の人数は進んでいるが，海外の招待客についての旅費の支払い等については招待状に対する返事を見ながら，会計理事とよく相談して決める予定であることもあわせて報告された。

5. 2008年春季年会について

嶋作開催地理事より配付資料に基づいて2008年春季年会の準備状況について報告が行われた。開催日程は3月24日～27日と最終的に確定したこと，初日開始は午後から，最終日は午後4時までセッションがあること，午前中は開始を10時とすることが報告された。講演会場は7つ，ポスター会場は3カ所に分かれること，ポスターボードの設置と撤収は業者に委託したこと，懇親会については3月26日に行われる予定で担当業者が決定したこと，事前申し込み方式（岐阜大での方法にならう）を採用することもあわせて報告された。

特別セッションは長期計画とALMAについての2セッション、それ以外にも特別講演や教育フォーラムが予定されている点が説明された。

また、ジュニアセッションが通常より規模が大きめとなり、さらに今回はジュニアだけで別のセッション（3月26日で100人規模）も行うこともあわせて報告された。

記者発表は3月23日に記念講演会会場で13時から開始であることも説明された。

なお、注意事項として会場の部屋、廊下等での飲食は禁止で禁煙でもあることも説明された。

教育フォーラムの中身について渡部教育理事より口頭で説明があり、3月25日17時半～19時に開催予定で、テーマは「今求められる天文学、天文教育とは」として4名の方に話題提供を頂く予定であると報告された。

6. その他

(1) 学術振興会 科研費の女性審査委員候補者の登録について

男女共同参画委員会の委員長である黒田氏より、学術振興会から依頼された科研費の女性審査委員候補者の登録について、望月優子氏を推薦したとの報告があったことが高田庶務理事より口頭で報告が行われた。

(2) 公開講演会（一般向け）について

渡部教育理事より資料4に基づいて「日本天文学会公開講演会 -学会100周年を記念して-」の準備状況について報告が行われた。

3月29日11時～17時の予定で有楽町朝日ホールで開催すること、第一部と第二部に分けて4名の講演者による講演が行われることなどが報告された。

(3) 東アジア天文学会議

土佐理事長より東アジア天文学会議において参加国間の交流をより深めるための意見交換が行われた旨の報告が口頭であり、韓国との共同による学会開催の可能性などが議論され始めているなどについて説明が行われた。

(4) 学会100周年記念展示について

國枝副理事長より学会100周年記念展示に関する進捗について口頭で報告が行われた。世界天文年の動きと歩調を合わせる形で2009年の5月から7月に国立科学博物館で、その後仙台、名古屋、大阪の順番で回る巡回展を行うことが確定したこと、展示内容についてはまだまとまてはいないが、実行体制などを議論中であることが報告された。今後議論を尽くして科学博物館に対する提案書の形にまでもっていく予定であること、資金調達については今後も努力が必要であることなどもあわせて紹介された。

(5) 世界天文年について

渡部教育理事より世界天文年についての活動状況について口頭により説明が行われた。寄付を募るときの説明用パンフレットを作成（配付資料）したこと、その他にも今後いろいろな企画を準備している点が報告された。

議 題

1. 新入会員の承認

高田庶務理事より新規加入者等についての報告が資料5により行われ承認された。またあわせて退会者等の報告が行われた。

2. 2007年度事業報告書案

高田庶務理事より2007年度事業報告書案が資料6により説明された。内地留学奨学金選考委員会の報告についての記述において、事業として2006年度に選んだ人に対して支援を行った点が書かれていないとの指摘があり、支援事業の一環として書き記すべきであるとの指摘がなされた。指摘された点を修正することを条件として2007年度事業報告書案は了承された。

3. 2007年度決算報告書案

田村会計理事より資料7に基づいて2007年度決算報告書案が説明された。2007年度は全体としては前年度までの黒字からは転じて大きくはないが赤字になった点、PASJの部分の出入りが大きかったこ

と、出版費に対する補助金が減ってきている点などが指摘された。

早川基金の使い方について毎年大きな黒字が出ているとの指摘があり、基金の今後の運用方法については検討をしていくべきであるとの認識で一致した。それに関して、早川基金は寄付をベースとした基金であり、運用方法には工夫が必要であることを考慮しなければならない点もあわせて指摘された。また、学術交流費について補助金にかなり余裕がある点についても指摘があり、補助額の増額など今後対応をしていく必要がある旨了承された。上記議論を経た上で、2007年度決算報告書案は承認された。

4. 2007年度監査報告

高田庶務理事より資料8に基づいて監査報告書について説明が行われた。1月10日に監査が行われ、文言の修正を除いて2007年度の事業報告及び決算報告が正当であると認められたことが報告された。

5. 2008年春季総会議題等

高田庶務理事より資料9に基づいて2008年春季総会議題等について説明があった。指摘事項の修正の後、承認された。

6. 早川基金の運用変更に関する提案

北本会計理事より資料10に基づいて、栗木早川基金選考委員長からの早川基金の運用方法の変更と、それに対応する内規の変更に関する提案について説明が行われた。援助費目を「滞在費＋参加登録料」に対しても広げること、同じ援助費目について他資金からの二重取りは禁止する点を強調することなどが提案された。運用案が提示され、今年度で試験的に導入して様子を見たいとのこと。滞在費の上限を設けたり、滞在に関する証拠資料の提出を求めること等で健全な運営を心がけることが提案された。報告書をきちんと出してもらってから経費は払う等の運用規則を明示する必要性が指摘された。指摘された修正を施して承認され、評議員会に議案として送られることとなった。

7. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規

北本会計理事より資料11に基づいて衛星設計コンテスト推進委員会を設置するための内規の案について説明があった。前回の理事会及び評議員会における議論を反映させる形で改訂したもの。学会が委員会を設置することで今後も継続的に関わっていく必要があることが強調されている。了承し評議員会に諮ることとした。

8. 指定管理者制度に関する共同声明について

花岡庶務理事より資料12に基づいて指定管理者制度に関する共同声明について説明が行われた。天文教育普及研究会が中心になってまとめてきた声明に天文学会も名を連ねて欲しいという要望。天文施設への指定管理者制度の導入に関する憂慮を表明したものである。

問題点として、この声明はどこに向かってアピールすることを想定しているのかがよくわからないという点が指摘された。実効性を持った声明にする必要があるので、アピール先を意識したものになる必要があるとの認識で一致した。どれぐらいの影響が導入後あったのか具体的な数字を出すなどして、事情に精通していない人にもわかるようにすることが必要であろうとの意見が出された。

今回の議論内容を天文教育普及研究会に伝えて今後も検討を継続することとなった。

9. プラズマ共催セッションについて

中本年会理事より世話人である松元氏の代理として、今後のプラズマ共催セッションの開催方針について資料13に基づいて説明があった。2007年秋の年会でのセッションも大変好評であったため、今後も継続する方向で動き始めたこと、3年後の天文学会年会中の開催を承認してもらいたい旨要請があった。

また追加の配布資料によって、参加費・講演登録費について、他学会所属の発表者、及び事前に登録した非発表者についても天文学会会員と同じとしたい旨提案された。

議論の後、原案どおりで承認された。

10. その他

堂谷PASJ理事より口頭で提案があった。

(1) PASJの総索引号の発行について、10年に1回の発行のタイミングが近づいているが、PASJ編集部としては冊子での発行はやめようと思っているが、その点について意見をもらいたい。

(2) PASJのレビューについて、林 忠四郎賞受賞者にお願いする案が浮上しているが、その点どのように考えるか。

(1)については不要との意見が多く、他の雑誌の状況も調べつつその方向で検討することとなった。(2)については案としては妥当な線であるが、詳細を検討後、提案の形で起案してもらいたい旨指摘があり、了承された。

次回は春季年会開催中に行う。

2008年2月13日

議長 土佐 誠

署名人 花岡庸一郎

署名人 高田 唯史